

Pict Bear で写真加工を楽しむ

フリーソフト Pict Bear を使った写真加工講座を4回に亘って行います。ただし、Pict Bear は機能豊富、且つ、ワードやエクセルとは全く異なるソフトであることから、基本操作の説明だけでも数時間必要ですので、この講座では『**レイヤー消し込み合成**』『**レイヤー塗りつぶし切り抜き合成**』『**合成専用写真で簡単切り抜き**』『**写真に写った邪魔ものを消す**』に必要な操作に絞って講座を進めます。作画には大変便利なソフトですので是非下記に示すサイトを利用して自主勉強して覚えて下さい。

1 Pict Bear について

フルカラーペイントソフトウェアと呼ばれるもので、レイヤー（塗色出来る透明ガラスのようなもの）を使えることが最大の魅力です。右画像はHPの一部で、カラフルなデザイン文字と文字背景は全て PictBear で作ったものです。ただし、これはごくシンプルな使い方で、本格的なイラスト画を描く人が多いようです。



このような描画ソフトですが写真の加工にも使える機能を持っている、幅広い使い方が出来るもので、特に、レイヤーの使い方を覚えると、面白いものが作れるようになります。

◆ PictBearの入手（予習実施者向け）

[窓の杜](#)からダウンロード&インストールして下さい。Version1.74 です。

ダウンロード手順を知りたい場合は[こちら](#)を参照。

解凍手順を知りたい場合は[こちら](#)を参照。

インストール手順を知りたい場合は[こちら](#)を参照。

新しいPictBearSEもありますが、機能が充実しているだけに使い方が難しくなっていますので、旧版で慣れてからトライするほうが良いでしょう。

◆ PictBearの基礎学習サイト

PictBearの基本操作を手順を追って説明している[サイト](#)

PictBear作者公認のLesson [テキスト](#) などで勉強して下さい。

◆ イラストを描いて見たい方

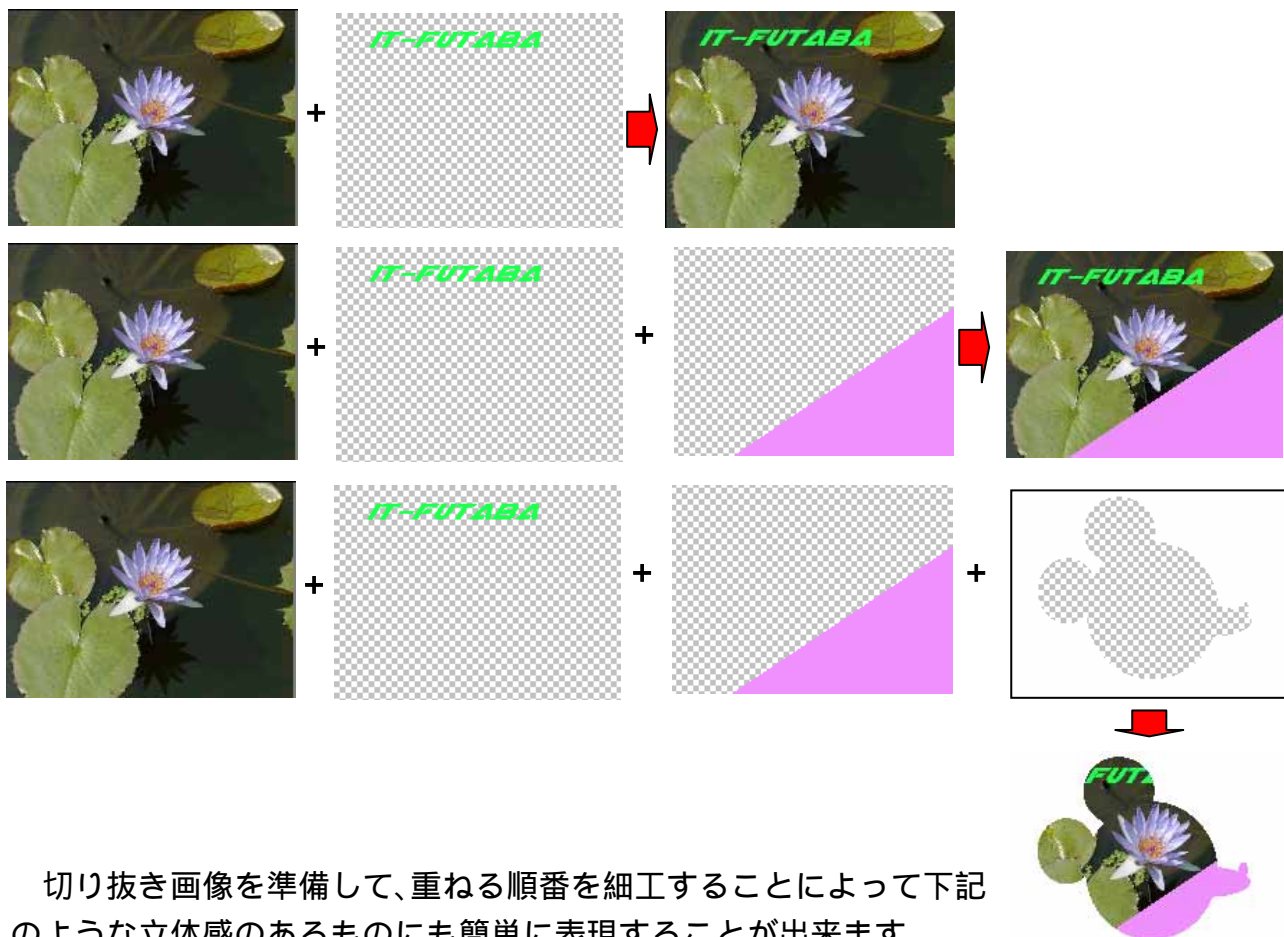
普通に下絵を描くことから始まりますので絵心が必要ですが[こちら](#)を参照

2 レイヤーとは

レイヤーとは何か、文章で説明しても分かり難いので、実際の画像とレイヤーで説明します。1枚の画像と3枚のレイヤーを準備しました。レイヤー初期状態は透明で、下記で薄灰色格子模様になっている部分が加工されていない透明部分になります。



画像の上に順次レイヤーを重ねると以下ようになります。文字や図柄を書き込むだけでなく、ミッキーマウスのように絵柄部分だけを透明にすることも出来ます。また、レイヤーは何枚でも重ねることが出来、重ねる順番の入れ替え、表示非表示の組合せを自由に行なうことが出来ます。



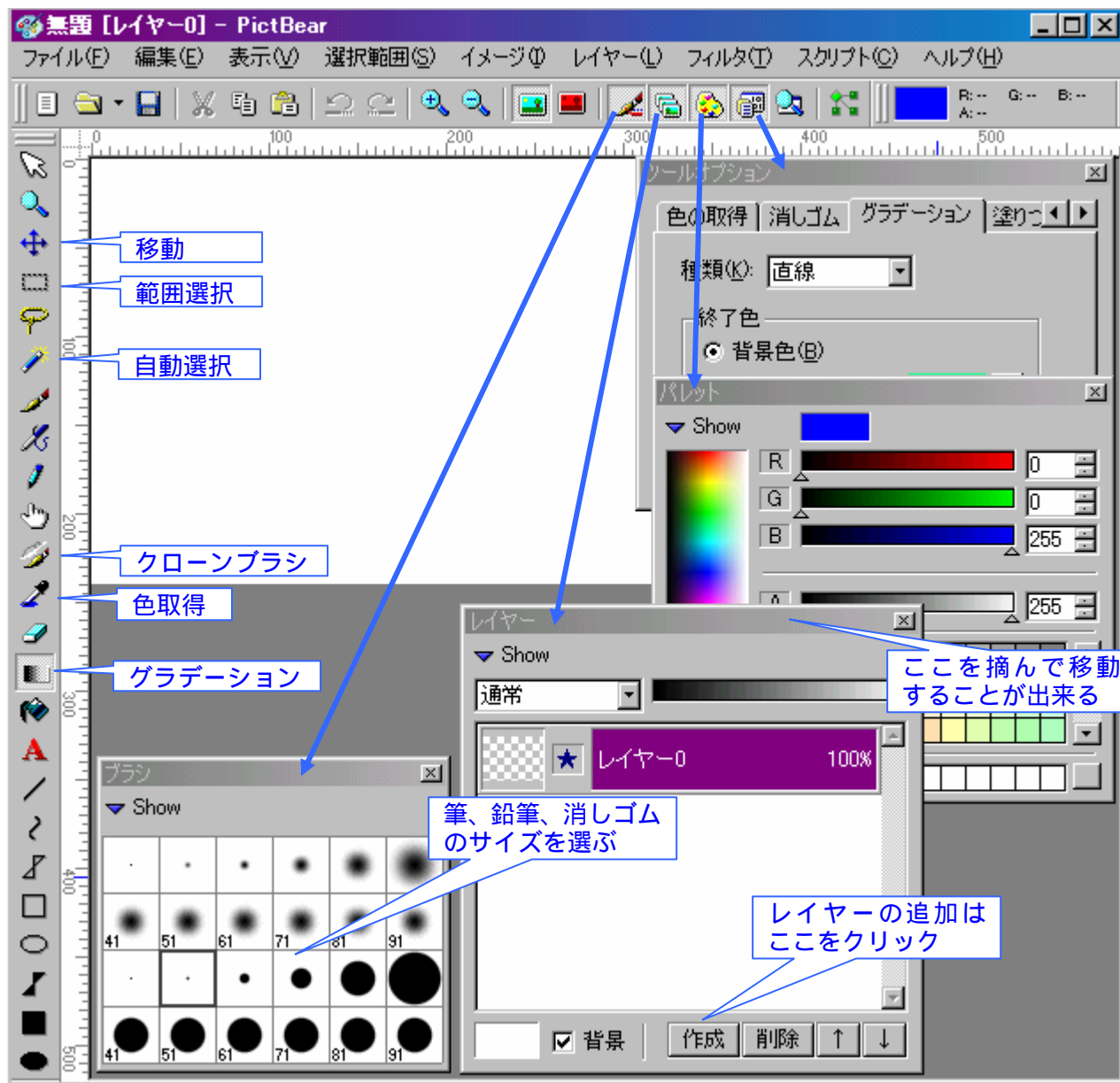
切り抜き画像を準備して、重ねる順番を細工することによって下記のような立体感のあるものにも簡単に表現することが出来ます。



3 PictBera の起動



これが起動アイコンです。ダブルクリックして下さい。起動すると下記画面になります。自主学習の範囲です。兎に角触って、覚えて下さい。



4 レイヤー消し込み合成

合成方法の殆んどは切り抜き合成ですが、レイヤーの仕組みを理解するために消し込み合成から練習していきます。几帳面にやれば本格合成と変わらないものを手軽に作成出来る方法です。

1) 予習者の事前作業

予習に使用する画像を次の手順で入手して下さい。

ITふたば会のHPのこの手順書の並びにある素材を開く（下記 囲み部分）

写真加工	写真加工(1/4)(pdf)注	PictBearを用い写真加工について紹介します 素材は こちら から	8/13	P
------	---------------------------------	---	------	---

『写真加工に使用する素材』頁が開きます。素材の入手方法はそこに記載されています。

8枚の画像をデスクトップ等に保存して下さい。デスクトップに写真素材等の名称のホルダーを作ってそこに保存すると良いでしょう。各画像の名前は変更しないで下さい。

- 2) 貼付ける画像を開く： ファイル[メニュー] 開く デスクトップにあるフォルダ『写真加工を楽しむ』 『元画像フォルダ』 group.jpg（予習者は上記予習素材の中から）----尚、画像はプライバシーの関係から敢えて不鮮明なものを準備しています。
- 3) 編集[メニュー] コピー：これは5番目の画像を張付ける前準備作業です
- 4) 背景画像を開く： ファイル[メニュー] 開く デスクトップにあるフォルダ『写真加工を楽しむ』 『元画像フォルダ』 hiruzen.jpg（予習者は上記予習素材の中から）

5) 画像を貼付ける

編集[メニュー] 貼付け

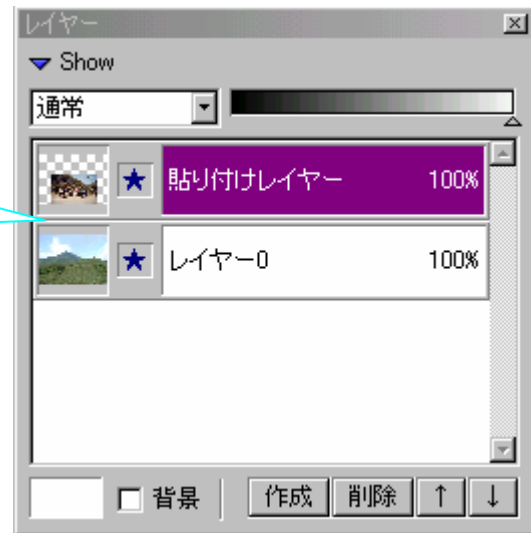
6) 貼付ける位置に移動する

この移動ボタンを押してから、左上に貼りついて画像を好みの位置へドラッグする



7) レイヤーの状態確認

貼り付けた画像は、貼付けレイヤーとして表示されています。
と右枠内が黒くなっていることを確認。



次の作業のために選択範囲を解除する（範囲選択 範囲選択解除）

8) 消しゴムの選択



9) 消しゴムサイズの選択 (ブラシサイズ選択と同じ)

10) 不要部分の消し込み

大きなブラシで外側を大まかに消しこんだ状態です。これで理解出来たと思います。レイヤーは本来透明ですから、消された箇所は下絵が見えてきます。消しゴムがレイヤーの外に出ても心配ありません。消すことが出来るのは選択しているレイヤーだけです。



ここからは小さいブラシで、虫眼鏡ボタンを押して画像を拡大して、小まめに消しこむだけです。足の間なども忘れずに消すことです。

消し過ぎがあっても慌てずに、戻るボタンを押せば消しこむ前に戻りますから安心して行って下さい。

11) 完成



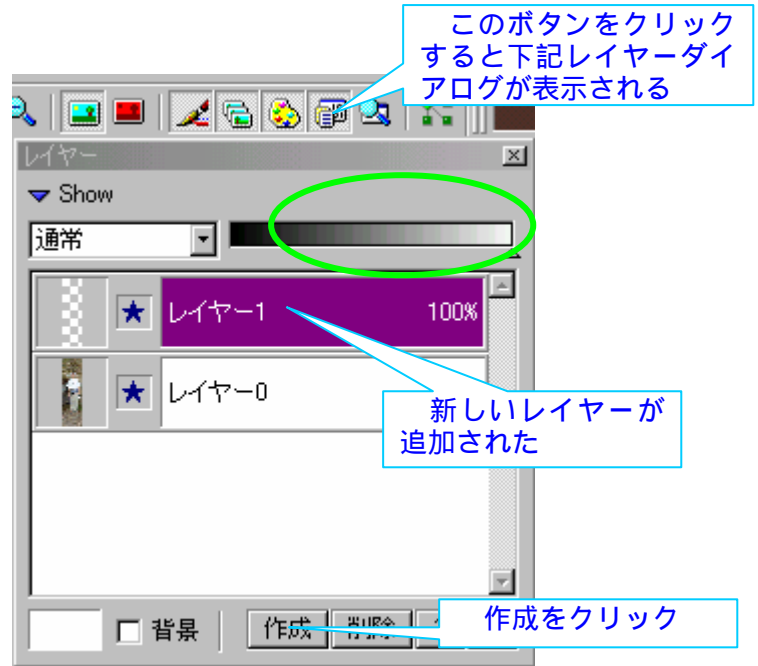
今回は、使った写真の相互の色合いの違い、陽の当たっている方向の違いから違和感がありますが、消しゴムでこれだけの合成写真を作ることができます。
これがレイヤーが使えることによる面白さです。レイヤーの使い方としてはまだ序の口、紹介しているサイトで勉強して楽しみを広げて下さい。

保存は通常の方法で行います。拡張子.jpgで保存。尚、拡張子.pbkを選択すると作業状態そのままの保存になり、加工継続が可能になります。

5 レイヤー塗りつぶし切抜き合成

一般には切り抜き対象を丁寧に範囲選択して切り抜くのですが、ここでは消しゴムの逆方法、切り抜く対象を塗りつぶすことで簡単に範囲選択する方法で行います。

- 1) 切り抜く画像を開く： ファイル[メニュー] 開く フォルダ『写真加工を楽しむ』 『元画像フォルダ』 watashi.jpg (予習者は予習素材の中から)。講習会ではデスクトップの写真加工を楽しむフォルダから開く
- 2) レイヤーを追加する

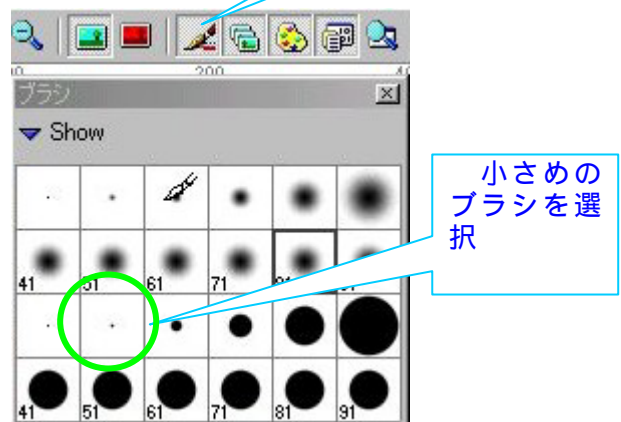


- 3) レイヤー 1 の不透明度を 40%にする
上図緑楕円囲み内の を左側にスライドして、レイヤー 1 の不透明度を 40%に下げる。

- 4) ブラシを選択



- 5) ブラシのサイズを選択



6) ブラシの色を選択 (赤を選択)



7) 画像を 200% ~ 300%程度に拡大表示する

プラス虫眼鏡をクリックする。(マウスローラーを回しても拡大縮小可能)

8) 輪郭を丹念に塗りつぶす

細かい部分がある場合は筆よりも鉛筆を選択したほうが塗り易い

9) 内部を塗りつぶす

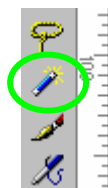
少し大きめの筆を使う

はみ出し注意

塗り残しが無いこと(不透明度を 100%に戻して塗り残し、塗りむらを確認、修正する)



10) 範囲自動選択ツール選択



11) 塗色部分をクリック

塗色部分が点線で囲まれる

12) 境界にぼかしを入れる

選択範囲[メニュー] 境界のぼかし
半径: 3 ピクセル OK

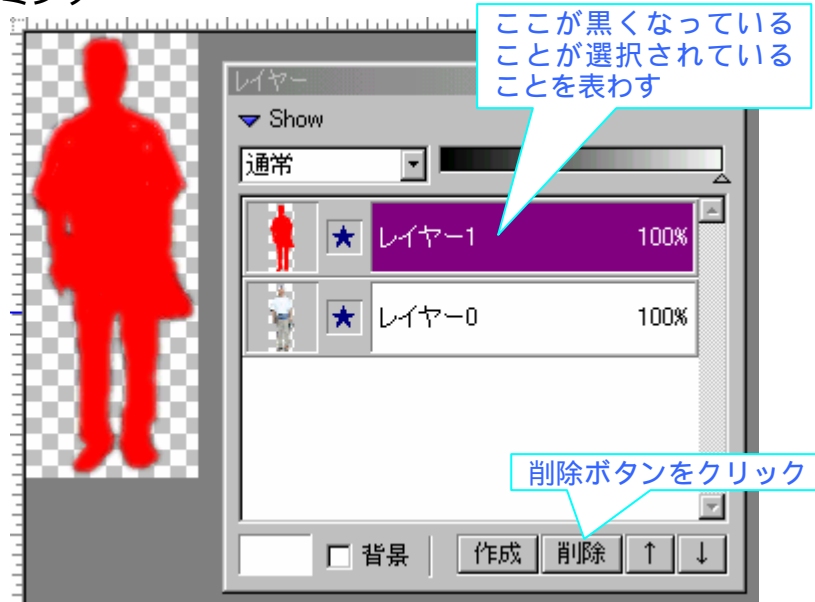


13) 切り抜き

イメージ[メニュー] トリミング

14) レイヤー 1 を削除

レイヤー 1 が選択されている状態で削除ボタンを押す



15) レイヤーを保存

レイヤー[メニュー] レイヤーの保存 保存する場所：デスクトップ、ファイル名：レイヤー 1 保存



16) 合成

背景写真を開く (ファイル[メニュー] 開く 元画像 kofun.jpg 開く) (予習者は予習素材の中から) レイヤー[メニュー] レイヤー読み込み レイヤー 1.pbl 開く -----尚、元画像変更保存確認メッセージにはいいえ選択
レイヤー未完成の人は、加工後フォルダからレイヤー1.pblを開く。

17) 貼付け場所に移動する

このボタンをクリックしてから、レイヤーを好みの位置までドラッグする



18) 完成



どうでしょうか。一寸見た目には合成には見えな
いと思うのですが。

尚、夫々の写真の大きさは予めリサイズ、もしくは、
仮合成して縮小程度を見極め、どちらかの画
像を縮小して下さい。

注) 本古墳は総社・緑山8号墳、石室規模としては県内5番目の大きさ

演習では塗りつぶし作業負荷を少なくする理由から縮小画像を使用しましたが、綺麗な合成に仕上げるためには大きな画像のまま行うほうが良い。ただし、その分塗り潰しに手間がかかります。

赤く塗つぶすことにより簡単に範囲選択出来た訳ですが、この逆、即ち、**背景が一色のところに写っているものであれば背景を一発で選択しておいて、選択範囲を反転させれば対象物を選択することになります。白や青いシーツを背景として人物撮影すれば、難しい操作なしに切り抜きが可能になることを意味します。ただし、背景と同じ色の服は着用しないこと(服も透明になってしまいます)。**

切り抜いたレイヤーを縮小することが出来ます。合成してみてサイズが合わなかった場合は、レイヤー[メニュー] レイヤーの読込で表示させておいてから イメージ[メニュー] イメージサイズの変更 縦横比を固定にチェックを入れる 縮小サイズ入力 OK

レイヤーのある状態で保存する場合は、ファイルの種類から PictBear Standard(.pbx)を選ぶことで後日の再利用・追加作業が可能になります。jpgで保存すると複数のレイヤーが一体化された通常の写真になり、合成した人物を消すことは出来なくなりますから、作成した画像は別名で保存しておきましょう。

6 合成専用写真で簡単切抜き

合成写真難しさは切り抜きにあるのですが、合成専用の写真を撮影すれば簡単に切り抜くことができます。お孫さんや花を、と、考えているのであればこれから説明する状態の写真を撮りましょう。合成専用写真、もしくは、合成に適した写真とは次のような画像です。左2枚がベストな写真で、少し手間をかければ右端の花束も切り抜くことができます。



ポイントは背景です。背景が単一色の写真、白いシートなどを背景として撮影すれば良いだけです。ただし、シートと同じ色の衣類の着用はダメです。例えば純白衣装の場合は青色シートを使うなど被写体とは異なる色でなければなりません。撮影は通常の方法で可能ですから、上記中央のトカゲと右の花束を切り抜いてみましょう。

<トカゲの切り抜き---被写体外形と背景がシンプルな場合>

1) 切り抜く画像を開く

ファイル[メニュー] 開く フォルダ『写真加工を楽しむ』 『元画像フォルダ』 tokage.jpg (予習者は予習素材の中のから)
講習会ではデスクトップの写真加工を楽しむフォルダから開く

2) 自動選択ボタンをクリックする

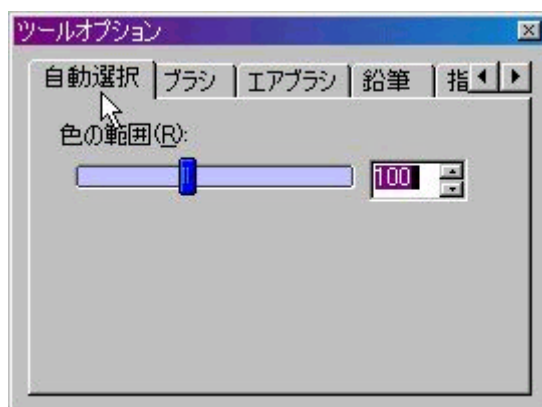
選択されるとボタンが引っ込んだ状態になる

3) 選択範囲を拡大設定にする

自動選択ボタンをクリックすると右図ツールオプションダイアログが表示されています。

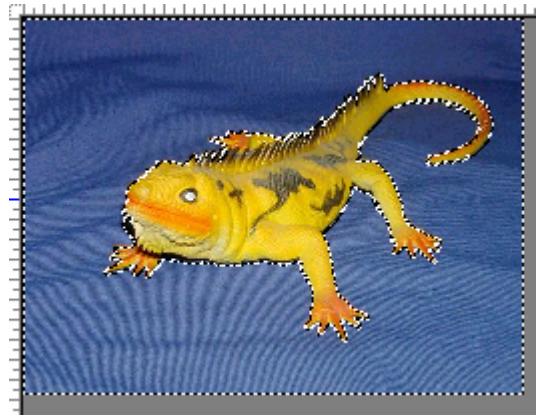
自動選択の機能は類似色を拾っていくもので、ここの数値を大きくするほど類似色の範囲が拡大され、一発選択の可能性が高くなります。

反面、被写体の中に近似色があるとそれも拾ってしまいますので、その場合は低めの数値にする必要があります。今回は100に設定します。



4) 背景をクリックする

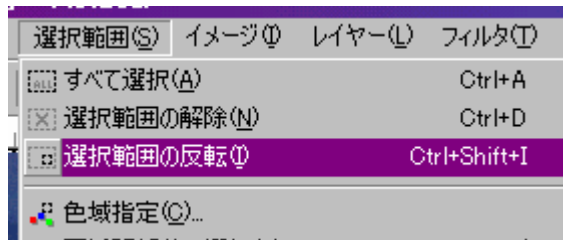
クリックする場所によって微妙に選択範囲が変わります。この時点では背景を選択しています。部分的にトカゲが選択されるようなら戻るボタンを押して他の箇所の背景を選択します。



5) 選択範囲を反転する

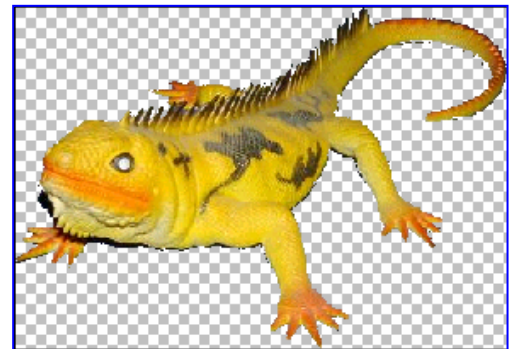
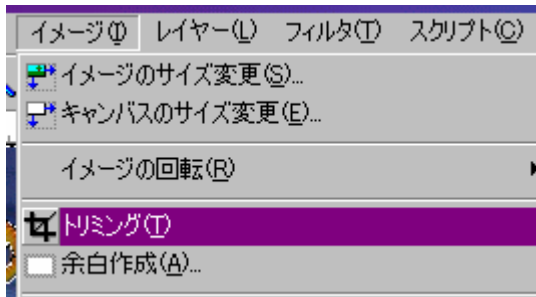
選択範囲[メニュー] 選択範囲の反転

これでトカゲが選択されます。少し他の部分が選択されていても消しこむことができますから気にしないで下さい。



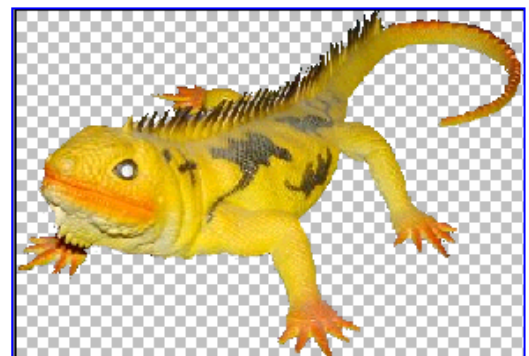
6) 切り抜き

イメージ[メニュー] トリミング



7) 細部調整 (不要部分の消し込み)

画像を拡大して余分に選択されている箇所を、消しゴムを選択し、小さなブラシでこまめに消し込んで完成です。



8) 保存

必ずレイヤーとして保存する。jpg 保存では背景の透明化が維持されない。

レイヤー[メニュー] レイヤーの保存

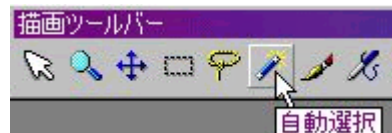
< 花束の切り抜き---被写体外形が複雑、背景色複数の場合 >

9) 切り抜く画像を開く

ファイル[メニュー] 開く フォルダ『写真加工を楽しむ』 『元画像フォルダ』 hanataba.jpg (予習者は予習素材の中のものから)
講習会ではデスクトップの写真加工を楽しむフォルダから開く

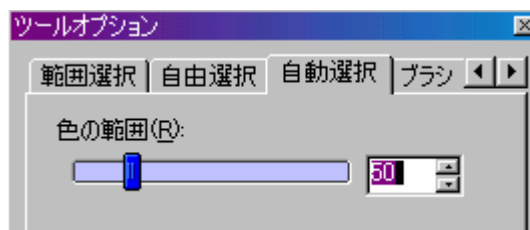
10) 自動選択ボタンをクリックする

選択されるとボタンが引っ込んだ状態になる



11) 色の範囲を50に設定する

前の画像と異なり色の種類が多く、形状も複雑なので数値を小さく設定します。

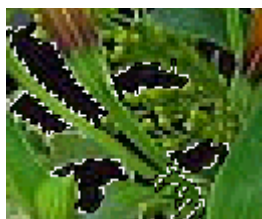


12) 背景をクリックする

13) Shift キーを押しながら次の背景をクリックする

Shift キーを押すことで選択した範囲が追加されていきます

14) 画像を拡大して、葉と葉の隙間なども選択する



Shift キーを押したときのマウスポインタの点線十字を選択する位置に合わせます。

間違って葉や花を選択した場合は、戻るボタンで元へ戻します。画像を拡大して細かいところまで見て下さい。

これが選択完了した状態です。



15) 選択範囲を反転する

選択範囲[メニュー] 選択範囲の反転

16) 切り抜き

イメージ[メニュー] トリミング

17) 細部調整（不要部分の消し込み）

画像を拡大して余分に選択されている箇所を、消しゴムを選択し、小さなブラシでこまめに消し込んで完成です。

18) 保存

必ずレイヤーとして保存する。jpg 保存では背景の透明化が維持されない。

レイヤー[メニュー] レイヤーの保存



合成写真作成サンプル



7 写真に写った邪魔ものを消す

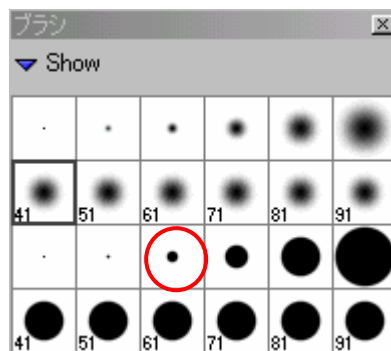
ベストショット！と思ってシャッターを切ったものが、帰ってパソコンで確認すると思わぬ邪魔ものが写っていた。時たまこんなことがありますよね。そんな邪魔ものを消すのが PictBear の場合クローンブラシです。他のソフトではスタンプと呼んでいることが多いようです。

消すとは云っても、消してしまえば白くなるだけですから『その場所に相応しい画像部分をコピーして、隠したい部分に貼り付ける』というのが実際の操作です。クローンとかスタンプと名前が付けられているのはそのためです。

1) クローンブラシ練習素材を開く

演習：元画像 clone-brush-rensyuusozai.jpg

2) クローンブラシをクリック

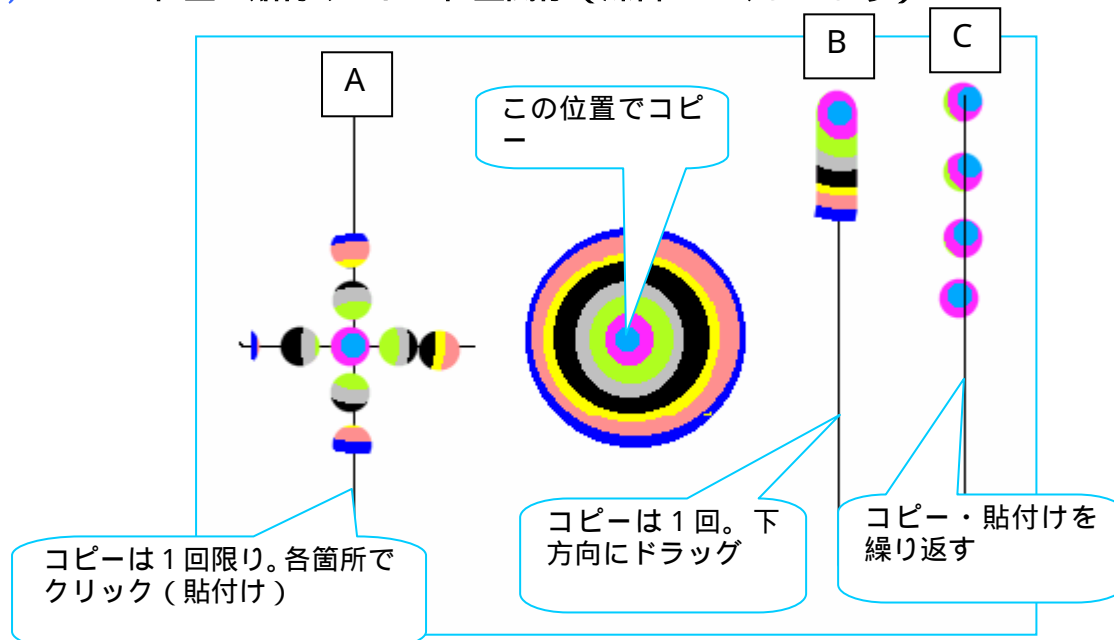


3) ブラシサイズを選択

4) コピー：コピーしたい位置にマウスを合わせ Shift キーを押しながらクリック

5) 貼付け：貼付けたい位置にマウスを合わせ、クリック

6) コピー位置と貼付けられる位置関係（練習してみましょう）



即ち、ブラシのサイズにかかわらず、コピーした段階でクリックした箇所を中心とする全画面がコピーされ
次にクリック貼付けした箇所を中心として見えない形で全画面が貼付けられ、
選択したブラシサイズで、見えない形で貼付けられたその位置の画像をクリックした箇所に表示する。 ---難解表現。体感して覚えて下さい。

7) 演習：元画像 butuuji.jpg を開く

左側の駐車禁止表示はないほうが雰囲気が保てます、また、僅かに写っている右端の人物は邪魔ものですから、これらを消すことにしましょう。

8) クローンブラシ選択後、ブラシサイズ選択

これは周囲がボケているブラシ(51)を使います。サイズは大きくコピーしたほうが良いのか小さくコピーした方が良いのかで小刻みに使い分ける必要があります。

9) コピー / 貼付け



緑丸のブラシを選んでこの辺の位置でコピーして

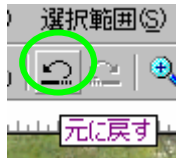
看板位置に貼付け



赤丸の細いブラシを選んで、この辺の位置でコピーして

ポールの位置を下側へドラッグする

** 操作としてはコピー / 貼付けを繰り返すだけですが、下記の操作を覚えておく必要があります。



10) 貼付け状態が好ましくない場合

何度でも元へ戻ります。



消し込み完成画像です。消し込み部分は拡大しないと判らないと思います。